

# 提案趣旨説明書

<作品タイトル>

札幌市真駒内シニア会館の設置(仮)札幌真駒内緑コミュニティセンター

<提案の趣旨>

2014年現在真駒内地区の65歳以上高齢者(以下シニアと呼びます)は7,167人、総人口24,886人の29%を占めています。2040年には9,002人、総人口2977人の50.5%に達すると推計されています。一方、0-14歳の年少人口は2776人から、1259人と、45.3%の減少が見込まれています。

今回の旧真駒内緑小学校々舎の活用につきましては、すでに決定している①おふくのみやみ、②子ども体験活動の場、③市立大学まちづくり教員スペースに加え、④真駒内地区シニアの活動拠点「札幌市真駒内シニア会館」の設置を提案いたします。

会館が三世対交流の場として誕生した、この巨大「地域」の基の向上の総称を「札幌市真駒内緑コミュニティセンター」と名付けたい、いかがでしょうか。

①将来街区では、10v12、全市では100か所近い「コミュニ」が10年後には、シニアの存在を「コミュニティ、おふくのみやみ、キャリア塾が存続的まちづくりの資源」ととらえる、先駆的なシニア活用政策を「産-学-官-民」協働で推進するためにも、シニア自身の企画参加による、地域のコミュニティ施設の展開は大いに期待が持てると思います。

②「シニア会館」の位置づけと具体的な展開

今回の民間貸付料は約20v22教室区、これに下部④の通り、シニアが気兼ねなく一日遊べる場所、くつろぎ、交際、余りスペース、プラス、カフェ、ビヤホール、居酒屋、喫茶店、道の駅まごまご(駅区の特設区、南のPR、歴史、シニアコミュニティのPR etc)、子どものおもちゃ、図書館の寄贈による、みんなの図書館、おもちゃ部屋、宿題片づけ室、お婆ちゃんといっしょの手芸、工作、爺ちゃんとお土曜と、シニアの入れ込み登録者が活躍する三世対交流事業の展開。映画館、ミニ工場、ホール、審査では「札幌シニアみらい大学(学がが即実践につながるカリキュラム)」ほびの各種講座、その他、下記⑤の副多様な展開が考えられます。いまお供で一日中シニアが気兼ねなく遊べる場があつたでしょうか。とくに一人暮らしのシニアが引き込みから「社会参加」の場として、活用するようになりたいものです。

③経営はシニア自身の手で、

下記④に真駒内シニア会館収支を考えてみました。現在の札幌市シニア活況化政策に1人当たり1年に10,000円の補助金があれば、全市で約40億円。④の例のようなビジネスの展開が積み重なると、年毎6倍×100か所=600億円、補助金の15倍の水上げ、これも出果すぎの夢なのでしょうか。オール札幌40万人のシニアのキャリア、コミュニティを結集、可能性をトライして行きたいと考えます。

自己実現+人生目標の完結=「終活」とエンタイクは「アツビ」でありたいと思っておりますが.....。